

Glocal Tenri



10

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.21 No.10 October 2020

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
日本文化との距離感
／永尾教昭 1
- ・ 日本語教育と海外伝道 (27)
新型コロナウイルスと日本語教育①
／大内泰夫 2
- ・ キルケゴールで読み解く 21 世紀 (25)
孤独—カフカとキルケゴールの場合—
／金子 昭 3
- ・ イスラームから見た世界 (6)
天理教とイスラームの出会い④—天理教
と宗教学のあいだ
／澤井 真 4
- ・ 伝道と翻訳—受容と変容の“はざま”で—(25)
仏典翻訳の歴史とその変遷⑧
／成田道広 5
- ・ 遺跡からのメッセージ (62)
弥生人は龍を見たか？
／桑原久男 6
- ・ コンゴ社会から見るアフリカ・ヨーロッパ
関係試論 (36)
ヨンビ=オバンゴ 4 代大統領の軌跡②
／森 洋明 7
- ・ ライシテと天理教のフランス布教 (22)
20 世紀のライシテ①
／藤原理人 8
- ・ コロンビアへの扉—ラテンアメリカの価値観
と教への伝播— (12)
5. コロンビアの体質 3
／清水直太郎 9
- ・ ヴァチカン便り (46)
聖ソフィア教会の今—財産と信仰をめぐる話
／山口英雄 10
- ・ 思案・試案・私案
「碑」の字表記問題再考 (9)
／八木三郎 11
- ・ 2020 年度公開教学講座の案内 12

巻頭言

日本文化との距離感

おやさと研究所長 永尾教昭 Noriaki Nagao

天理教を海外で広めるに当たり日本人
布教師が陥穽にはまりやすいのが、教え
そのものからではなく、日本の文化や伝
統・習慣からきたものを、天理教の教理
に必要なものと思ってしまうことだろう。
極論すれば、日本の習慣から来ているだ
けのものであれば、必ずしもそれを海外
で用いる必要はない。時にはそれを押し
付けることによって、信仰するためには
日本人にならないといけないのかという
反発を現地の信者から受ける恐れもある。
しかしその一方で、天理教は日本で始ま
ったのだから、当然祭儀をはじめ多くの形
の中に日本文化由来のものはあるわけで、
それをすべて排除することは不可能だし、
またそれははたして正しいことだろうか。

かつて筆者が所長を務めた天理教ヨー
ロッパ出張所で、国内の一般教会のように
親神、教祖、祖霊の三社を祀るようになっ
て以降のことである。祖霊を祀ったのだから、
祖霊祭を勤めるべきとなった。その際、
天理教教会本部や国内の教会では、通常3
月と9月に勤める。これは、恐らく、天
理教教理から来たのではなく、日本の彼
岸の習慣から取られたのだと思う。

一方でヨーロッパでも、11月2日はカ
トリックの「死者の日」だ。いわば亡くな
った人を偲ぶ日である。この日に墓参りする
人も少なくない。前日の11月1日は聖人
を偲ぶ「万聖節」である。ちなみにメキ
シコなどは1日を「死者の日」としている。
前日の10月31日夜はアメリカではハロー
ウィンと呼ばれる行事があり、今ではヨー
ロッパにも逆輸入されている。

ヨーロッパの習慣なので、ヨーロッパ出
張所では祖霊祭は「死者の日」の行われ
る11月でも良いのではないかという議論
になったことがある。つまり日本では日
本の習慣である彼岸に因んで祖霊祭をす
るのだから、ヨーロッパはヨーロッパの習
慣に合わせればいいとも考えられる。宗
教行事などを、その国の習慣に合わせて
ある程度アレンジしていくのは、海外で
教勢を伸ばすためには大切な点でもある。
天理教教会の月次祭は定めた「日」で勤め
る決まりだが、海外教会の多くが日曜日に
執行するのはその一例だろう。

ただそうすると、天理教は外から見る
と、一つの宗教でありながら日本とヨー
ロッパで祖霊祭の執行月が違うのか、と
いう疑問も持たれるのではないかと、
結局、日本に準じて3月と9月とした。

些細なことだが、事務的なことでは
墨書という各種願書の提出方式などは、外
国人教会長どころか今や日系人にも不可
能だ。そうはいいながら、実は布教戦略上、
日本の習慣をむしろ取り入れていったほう
が良いという場合もある。たとえば、コン
ゴなどのようないわゆる発展途上国では、
日本人が「この国では暑いから、ハッピーは
必要ない」と言っても、彼らは着たがる。
朝夕のおつとめで着用する教服と呼ばれる
黒い衣装なども同じだ。それは、彼らに日
本に対する憧れがあるということと、教会
本部をはじめ日本ではそうしているから、
ハッピー着用が信仰者のあるべき姿だと思
っているためだろうと考えられる。

要するに日本文化との訣別ではなく距
離の取り方だろう。何が正しいかは一概
に言えない問題であり、国と国の関係(例
えばかつての韓国のように日本式のもの
が許されない場合がある)なども考慮し
ながら、常に議論しなければならぬと
思う。